## なんごく・こうち地方拠点都市

# アクションプログラム⑪
# "自立への挑戦" はいま！

"自立への挑戦"はいま―のシリーズも、次回の"総集編"で終わります。
そこで今回は、若者にも魅力のある拠点都市地域にするためには「快適な居住環境」の整備が求められているところから、住宅や住宅地の整備・下水道や公園などの計画を紹介します。

### 快適な居住環境の整備

▲――十市パークタウンの分譲で住宅も増えていますね。

市は基幹産業である農業を振興するため、"農業振興地域・農用地"の区域が多く、住宅の建設が制限されてきました。ところが最近、市街化区域として住宅の建設を促進している後免町周辺や十市パークタウンの分譲も進んで住宅も増えてきています。県平均や高知市に比べると持家率や一住宅当りの延べ面積も多くなっています。

▲――庭付きの一戸建て住宅の比率が多いわけですね。ただ、その周辺での医療・福祉や教育環境も求められるし、

十市パークタウン

## 愛着と魅力ある快適な居住環境

ため、市街地再開発事業（後免町）町駅前広場整備（後免町駅）土地区画整理事業（駅前町・大埔）コミュニティ住環境整備（大埔）が計画され、調査や地元説明などに入っています。また、岡豊町の医大周辺での土地区画整理事業も計画されています。

▲――計画の中でも、まず先行しているのが後免町市街地再開発の一・九ヘクタールと都市計画道路高知・南国線ですね。

都市計画が出来て二十数年ぶりの具体的な取り組みだけに期待が大きいわけです。住宅はライフスタイルや子供からお年寄りにやさしい環境など、ニーズも多様化しています。県は"木の文化県構想"を考えていますが、気候風土に適した木材住宅の振興や豊かな地場産材を活用した活性化も必要です。

▲――景観とか、緑地などのオープンスペースの確保などがいわれていますね。

民間と行政が一体になって進めていかなければ――。市はHOPE（ホープ）計画をたてて民間の方々とともに、家並や街のたたずまい、自然環境や伝統・文化を生かした特性のある居住環境などを模索しています。

### くみ取りから水洗便所

▲――「くみ取りから水洗便所へ」切り替えないと、「若者の定住」もおぼつかないですよね。

後免町周辺では、浦戸湾東部流域下水道が進められ順次、使い始めています。農村で集落が連たんする地区では農業集落排水事業が浜改田を最初に久礼田、田村など、個別には合併浄化槽が設置され居住環境や自然環境も改善されつつあります。

▲――居住環境の整備となると、単に住宅の整備だけでなく周辺の生活環境の整備が必要なわけですね。

拠点都市の計画は十か市町村が、それぞれ役割り分担をして「職・住・遊・学」のバランスのとれたまちづくりをしていくわけです。

特に、若者が定住し県勢発展の核となる開発・整備を目指しており、魅力のある就業の場とともに質の高い住宅の確保、交流と憩いの場の創出、ゆとりとうるおいのある快適な環境をつくることが基本的な要件になってきます。

そして、「住んでみたい、住み続けたい」という、魅力と愛着のもてる南国市にしていきたいですね。（大司は、このシリーズの最後の"総集編"として、全体の進捗状況をご紹介します）

若者向きには"にぎわいのあるまち"も必要ですね。

基本計画では「ザ・ごめんパワーアップシティ地区」として後免町市街地の再開発ビルの中に公共住宅を計画しています。地区全体では道路の整備とあわせて都市的機能や居住環境を一緒に整備する